

第5回横幹連合コンファレンス開催報告

板倉 宏昭*

今日の社会が抱える多くの現実的課題に向き合う時、横幹連合の各会員学会がそれぞれの背景として持っている特定の領域を超えて知識や成果を用いることが不可欠となっている。横幹連合コンファレンスは、横幹技術の「深化」の役割を担っており、各会員学会の学問領域での現実的課題と知識を共有化・普遍化する場であると同時に会員学会間の交流の場となっている。横幹連合10周年の大会である第5回横幹連合コンファレンスでは、これまでの横幹連合コンファレンスで議論されてきた「異分野の新結合」をふまえ「異分野の新結合と知の創造」を統一テーマとし、持続性の評価によるイノベーションの推進の議論を展開する場とすることを目指した。第5回横幹連合コンファレンスは、2013年12月21日(土)、22日(日)、23日(月・祝)の3日間にわたって、日本一小さいうどん県・香川県で開催された。サブテーマ「うどん県発・地域ブランド創造による地域活性化」のもと様々な学会の研究者が集い、12月21日、22日は香川大学幸町キャンパスで2日間にわたり「異分野の新結合と知の創造」「地域活性化」についてディスカッションを行い、12月22日と23日には、横幹連合コンファレンス初となる2つのエクスカージョンを実施した。

本コンファレンスでは、特別セッションを含むオーガナイズドセッションが23セッション90件、一般セッションが17セッション49件の、合計37セッション139件の講演論文が発表され、238名が参加した。発表件数、参加者数とも過去最高を記録した。

オーガナイズドセッションは、地域力の創造・再生、リスクマネジメントと経営高度化、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、システム科学フロンティア、ヒューマンインターフェイス/バーチャルリアリティの各領域における新結合・創造、および新結合・創造のための人材育成の7つを企画セッションとした。地域力の創造・再生では「ICTを活用した地域イノベーションの可能性」など3つのセッションが行われた。リスクマネジメントと経営高度化では、「安心安全社会の実現を目指



Fig. 1: パネルディスカッション

し、システム運用空間の電磁環境を考える」など5つのセッションが行われた。グリーンイノベーションでは、「持続可能な社会に向けたグリーンイノベーションの可能性」など2つのセッションが行われた。システム科学フロンティアでは「データ中心社会科学:ビッグデータ分析とその応用」など6つのセッションが行われた。新結合・創造のための人材育成では「文理融合を含む実践的な横型人材育成」など4つのセッションが行われた。

また、学会企画として、特別企画セッション:「産業社会を牽引する横幹人材の育成」、「システム構築型イノベーション」、「企業向けITサービス構築の実践事例」の3つのセッションを実施した。

さらに、今回のコンファレンスでは、10周年記念行事として、全員が参加する3つの全体会議を企画した。1日目の午後に、パネルディスカッション「地域を越える地域ブランド～地域ブランド創造についての課題と戦略～」を開催し、パネリストとして、西澤隆氏(野村アグリブランニング&アドバイザー取締役社長)、岡輝人氏(香川県観光局長)、近藤浩二氏(レアスウィート社長・元香川大学学長)、岩澤健氏(日本経済新聞社高松支局長)をお招きした。西澤隆氏から「地域ブランド創造について」、岡輝人氏から「うどん県。それだけじゃない香川県」、近藤浩二氏から「産官学連携事業としての希少糖事業」、岩澤健氏から「地域を超える地域ブランド」についての講演があり、その後参加者を変えて、地域ブランド創造についての課題と戦略について、活発なディスカッションが行われた(Fig. 1参照)

*第5回横幹連合コンファレンス実行委員長・香川大学大学院地域マネジメント研究科



Fig. 2: 吉川弘之氏による記念講演



Fig. 3: 会長懇談会

2日目にはお昼をはさんで、獅山有邦氏（名古屋大学教授，前四国経済産業局長）による基調講演「地域の現場から横断的基幹技術の新展開に期待する」と、吉川弘之氏（科学技術振興機構研究開発戦略センター長，横幹連合名誉会長）による記念講演「領域の統合～分科によって成立する科学と，統合によって成立する合学（工学）～」を開催した（Fig. 2 参照）

また，2日目の昼休みには，各会員学会会長による会長懇談会を開催した．出口会長，吉川名誉会長のご挨拶に続き，総合科学技術会議常勤議員との意見交換会についての報告や，会員学会相互連携などについての意見交換が行われた（Fig. 3 参照）

今回のコンファレンスの特色のひとつとして，横幹連合コンファレンス初となる2つのエクスカージョンの開催が挙げられる．12月22日（日）には，香川の地域ブランドの代表である讃岐うどんの手打ちを体験していただく「うどん打ち体験コース」を，12月23日（月・祝）は，瀬戸内海の直島を訪れる「直島コース」を開催し，それぞれ14名，8名の方にご参加いただいた．

「うどん打ち体験コース」では，高松市内の中野うどん学校にて，プロの職人から本場さぬきの手打ちうどんの作り方を伝授していただいた．粉を練るところから始めて，麺棒でのばし，茹でて食べ，まさに地域ブランドを実体験していただき，参加者からも大変好評で



Fig. 4: エクスカージョン「うどん打ち体験コース」

あった（Fig. 4 参照）

「直島コース」では，本村の無人の古民家を買って保存・再生し現代美術のインスタレーションの恒久展示場とした「家プロジェクト」，福武總一郎氏による「直島南部を人と文化を育てるエリアとして創生」するための「直島文化村構想」に基づき「自然・建築・アートの共生」をコンセプトに，美術館とホテルが一体となった「ベネッセハウス」，約25年前から直島と関わり数多くの美術施設を設計してきた安藤忠雄が古い町並みの残る本村地区に建てた「ANDO MUSEUM」などを見学した．今回のエクスカージョンでは，瀬戸内海の島々を舞台に繰り上げられる現代アートが，まさに地域ブランドとなった現場を訪れ，地域活性化の取組みとその成果について，貴重な体験と意見交換ができた．参加者の方からは，再度訪問したいとの感想を頂いており，これも瀬戸内の魅力であると思われる．

今回のコンファレンスは，四国という遠隔地での開催にもかかわらず，過去最高の発表件数・参加者数と多くの方にご参加いただき，参加された多くの方から「盛況であった」「運営が良かった」とのお褒めの言葉をいただいた．横幹協議会および高松観光コンベンションビューローからもご支援いただき，最終的な収支決算も過去最高の黒字決算で終えることができた．運営的，財政的にも成功であったと考えている．これらの成功要因を簡単に分析してみると，① 第5回横幹連合コンファレンスは横幹連合10周年の大会であり，パネルディスカッション，基調講演，記念講演，会長懇談会，2つのエクスカージョンと，盛りだくさんの内容であったこと，② 瀬戸内国際芸術祭2013が開催された直後であり，瀬戸内・香川という開催地に魅力を感じて頂けたこと，③ 各学会中国四国支部などのご協力を得たこと，④ 学内他部局の協力を得て，早くから実行委員会を立ち上げたこと，などが挙げられる．最後に，ご協力いただいた実行委員，プログラム委員，事務局の皆様のご支援に心より感謝したい．